

開催案内

マンスリーセミナー

475 回	12/20 (火)	深紫外光を用いた 新型コロナウイルスの不活化	徳島大学 ポストLEDフォトンクス研究所 医光融合研究部門 准教授 南川 丈夫 氏
<p>(内容)2019年に勃興した新型コロナウイルス感染症は、2022年によくアフターコロナ社会への変遷の兆しを見せているものの、依然として感染者は多く、生命への影響、社会への影響は多大な状況にある。また、同様な社会的制限を伴う新たな感染症が将来的に勃興することも懸念されており、様々な感染症に対する多重的かつ多角的に対応策を確立し、現在および将来に備えることは重要な課題である。本講演では、感染症に対する一つの有効な対策案である深紫外光を用いた感染症対策について、深紫外光を用いた感染症対策の原理、利点、および実際の不活化効果について紹介する。</p>			
476 回	1/10 (火)	車載ステレオカメラの広視野化技術	株式会社 日立製作所 研究開発グループ 計測イノベーションセンタ アンビエントインターフェース研究部 主任研究員 山崎 和良 氏
<p>(内容)国内では交通事故による死亡者数が年々減少しているものの、依然として多くの人が毎年交通事故により命を落としている。今後、交通事故を削減するためには、前方だけでなく周囲の交通状況を正確に把握する必要があり、先進運転支援システムや自動運転システムでは、センシングの広視野化が求められている。本研究では、前方センシングに求められるセンシングの遠方化と広視野化を両立するマルチシフト方式のステレオカメラを開発した。さらに、1つのカメラで全周囲センシングを実現する、モノキュラスステレオカメラを開発した。本講演では、これら車載向けステレオカメラの広角化技術について紹介する。</p>			
477 回	2/21 (火)	オールフォトンクスネットワークに向けた 新たな光アクセス伝送・システム技術	日本電信電話株式会社 NTTアクセスサービスシステム研究所 光アクセス基盤プロジェクト 主席研究員・プロジェクトマネージャ 吉田 智暁 氏
<p>(内容)社会・産業のデジタル化やリモートワールドの進展に伴い、ネットワークを流れるデータ量は増加し、その種類やニーズが増え続けている。特に従来主流であったベストエフォート型とは異なるユースケースが登場し、通信ネットワークに対して拠点や遅延に新しいニーズが生まれつつある。これらのニーズに対応するべくNTTは2019年にIOWN構想を発表するとともに、光ファイバが有する大容量、長距離、多重伝送能力をさらに活かし、多種多様な光アクセスサービスを提供するオールフォトンクスネットワーク(APN)の研究を開始している。本講演では、これまでのAPNの光アクセスに着目したアクティビティを紹介するとともに、APN実現に向けた光アクセス伝送・システム技術の最新動向について述べる。</p>			

最新情報は光産業技術振興協会のマンスリーセミナーのページをご覧ください。

会場：オンライン開催 (Webex)

時間：午後3時30分～5時30分

定員：90名 (申込先着順)

参加料：協会賛助会員：1,500円 (1回につき・消費税込)

一般参加：3,000円 (1回につき・消費税込)

大学・公的機関：無料 (学生・院生含む)

支払方法：銀行振込

申込方法：マンスリーセミナーHPをご確認の上、

メールにてお申し込みください。

<http://www.oitda.or.jp/main/monthly-j.html>

問合せ先：光産業技術振興協会 開発部 瀬戸山

TEL：(03)5225-6431 E-mail：mly@oitda.or.jp